

インフルエンザとはどんな病気？

インフルエンザの症状

突然の高熱、頭痛、関節痛、筋肉痛等で、のどの痛み、咳、鼻水などもみられます。
普通の風邪に比べて全身症状が強く、気管支炎や肺炎などを合併し、重症化することが多いことが特徴です。

インフルエンザの予防接種の有効性

インフルエンザ予防接種の有効性は世界的にも認められています。予防接種を受けてから、抵抗力がつくまで2週間程度かかり、効果が持続する期間は約5か月といわれていますので、毎年1回受けることが効果的です。

予防接種を受ける際の注意事項

- ①このチラシをよく読んで必要性や副反応についてよく理解しましょう。
- ②気にかかることやわからないことがあれば、予防接種を受ける前に担当の医師や看護師に質問しましょう。
- ③予防接種はあくまでもご本人の意思によるものなので、接種を希望する場合もしない場合も、十分に医師から説明を聞き理解をした上で判断してください。
- ④予診票は接種する医師への大切な情報です。責任を持って記入するようにしましょう。
- ⑤自らの意思で予防接種を希望し、予診票の実施に関する明示の同意をした場合に限り接種を行います。

予防接種を受けることができない人

- ①接種の時点で37.5℃以上の発熱のある人
 - ②重篤な急性疾患にかかっている人
 - ③インフルエンザ予防接種に含まれる成分によってアナフィラキシー（じんましん、呼吸困難、血管浮腫等）を呈したことが明らかな人
 - ④インフルエンザの予防接種で接種後2日以内に発熱のみられた人及び全身性発疹等アレルギーを疑う症状を呈したことがある人
 - ⑤その他、医師が不適当な状態と判断した人
- 上の①～④にあてはまらなくても医師が不適当と判断したときは接種できません。

予防接種を受けるに際し、お医者さんとはよく相談しなくてはならない人

- ①心臓病、腎臓病、肝臓病、血液疾患、発育障害等の基礎疾患がある人
- ②今までにけいれんを起こしたことがある人
- ③過去に免疫不全の診断がされている人及び近親者に先天性免疫不全症の人がいる人
- ④間質性肺炎、気管支喘息等の呼吸器系疾患を有する人
- ⑤接種しようとする予防接種の成分に対してアレルギーを呈するおそれがある人

予防接種を受けた後の一般的注意事項

- ①予防接種を受けた後、特に30分以内に急激に体調が変化することがあります。医師とすぐに連絡をとれるようにしておきましょう。
- ②インフルエンザワクチンの副反応の多くは24時間以内に出現しますので特にこの間は体調の変化に注意しましょう。
- ③入浴は差しつかえありませんが、注射した部位を強くこすることはやめましょう。
- ④接種当日はいつもどおりの生活をしてかまいませんが、激しい運動や大量の飲酒はさけましょう。
- ⑤万が一、高熱やけいれん等の症状が出た場合は速やかに医師の診察を受けるようにしてください。

予防接種の副反応

- * 注射部位が赤くなる、腫れる、硬くなる、熱をもつ、痛くなる、しびれることがあります。また、発熱、悪寒、頭痛、倦怠感等も起こることがありますが、通常2～3日のうちに治ります。
- * まれに接種直後から数日中に発疹、じんましん、紅斑、掻痒等があらわれることがあります。
- * 非常にまれですが、次のような副反応が起こる場合があります。

- (1) ショック、アナフィラキシー様症状
- (2) 急性散在性脳脊髄炎（発熱、頭痛、けいれん、運動障害、意識障害など）
- (3) ギランバレー症候群（両手足のしびれ、歩行障害など）
- (4) 脳症（発熱、けいれんなど）
- (5) 脊髄炎（両足の麻痺、発熱など）
- (6) 視神経炎（目を動かすと目の奥が痛いなど）
- (7) 肝機能障害、黄疸
- (8) ぜんそく発作

(1)から(8)のような症状が認められたり、疑われた場合にはすぐに医師へ申し出てください。

高齢者インフルエンザ予防接種によって引き起こされた副反応により、医療機関での治療が必要になったり、生活に支障が出るような障害を残すなどの健康被害が生じた場合は、予防接種法に基づく補償を受けることができます。担当課へご連絡ください。

新型コロナワクチンとインフルエンザワクチンとの同時接種は可能です。